

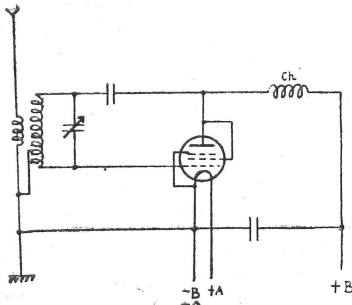
第10図 ソ聯ゾンデの内部, 左は電池と発信器, 右前は計器部

バイメタルは $0.5 \times 35 \times 74 \text{mm}^3$ の弧形のもので、動きをレバーで拡大している。又バイメタルの腕金部には一応熱絶縁を施している。バイメタルは直結式でないので凍結の危険がある。

又バイメタルの時定数は日本の物より大部大きいようである。

気圧計は60mm中の空盒で、バイメタルを着けて低温における温度補正を行っている。特性は気圧とリニヤーになっているから高々度での精度は悪いと思われる。下層では1符号の幅が100mb以上であり上層の符号の幅の小さい所でも13mbになる。湿度計は毛髪10本を直線的に張りその伸縮をそのまま拡大している。倍率は適宜調節出来る。1符号の湿度範囲は8~12%である。

発信器は第11図の示す通りで、ハートレー発振回路を用いた簡単なもので周波数は10~15MC/sと思われる*。



第11図 発信器の配線図

電波型式は A_1 で B 電源を断続する事によって電波を断続している。規格は $E 3V$, $E_p 67.5V$ である。電池は注射液を使用している。

引用文献

1, Mullard Ltd., 1953: The Radar Sonde, Century House, Shaftesbury Avenue, London,

* 昨年バイエルンの国際比較観測に使用したものは200mcであった。

W. C. 2,
 2. Dymond, E. G., 1947: The Kew Radio-Sonde, Proc. Ph. Soc. 59.
 3. Scrase, F. G. 1954: Radiation and lag error of the meteorological Office radiosonde and the diurnal variation of upper-air temperature, Quart. J. R. Met. Soc. 80. p567.
 4. Väisälä, V, 1936: The finnish radio-sonde and its use, Societas Scientiarium Fennica, Commentisnes Physico-math. K. 9. Helsinki, 14, 12.
 5. Väisälä, V., 1941: Den Strahlungsfehler oder finnischen, Mitteil. d. met. Inst. d. Univ. Helsingfors, Nr 47.
 6. Tommila, M., Väisälä, V., 1947: Handbook of Sounding by means of the Finnish Radio-sonde, mettil. d. met Inst. d. Univ. Helsingfors No. 58.
 7. Moltchanoff, P. A., 1928: Zur Tecknik der Erforschung der Atmosphäre, Beitr. z. Phys. d. freien Atmosphäre, Bd. 14.
 8. 宗像明夫, 島貫林治郎, 1954: ソ聯製 Radio-sonde について, 高層測器分科会資料. No. 54-20.
 9. Hayashi, E., Sekiguchi Y., Yada, A., 1956: On Solar Raiation Error and its Correction of Japanese Radiosonde, 27, No. 3.

関西支部だより

(1) 12月の例会は恒例として京都で懇親会を兼ねて行うことになっている。31年度も12月15日に京都のセンター近くにある大和料理専門学校の大広間で京大助教瀧野錦蔵博士から融雪の熱力学に関する特別講演を伺い、ひきつづいて近畿在住の会員約50名の懇親会が開かれた。

(2) 1月例会は昭和32年1月29日(火)神戸海洋会館(省線元町駅山側)で午前10時から開かれた。参加者は約百名。支部長の滑川京大教授司会の下に『海難と気象』に関して次の講演が行われた。

第1部 一般学術研究の部

東和丸遭難当時の気象状況	神戸海洋	長尾真也
12号台風に遭難した乾瑞丸の体験記	船長	上島久美
台風の進路予想	神戸海洋	川鍋安次
低気圧の発達について	神戸海洋	川鍋安次
アリューシャン低気圧について	神戸海洋	金谷光三
神戸の北風について	神戸海洋	井野英雄
海上の気圧傾度の予想について	姫路測	田口八雲

第2部 部外講演の部

海難に関する考察	神戸海上保安部	朝藤琢弥・早川音也
海難と気象	大阪商船	青山氏
北太平洋の気象	川崎汽船	小島末次郎
瀬戸内海の気象	関西汽船	原田氏
北太平洋の気象と航路選定について	山下汽船	樽垣真